

氏 名 伊藤 新平
学位の種類 博士(医学)
学位記番号 甲第487号
学位授与年月日 平成30年3月23日
審査委員 主査 教授 北垣 一
副査 教授 秋山 恭彦
副査 臨床教授 太田 哲郎

論文審査の結果の要旨

心筋梗塞、狭心症などの冠動脈疾患の診断に心筋シンチは有用であるが心下壁に生じるアーチファクトが問題である。近年、従来よりも感度、分解能が高いCadmium Zinc Telluride(CZT)カメラが登場し診断精度向上が期待されている。しかしCZTカメラでも同様のアーチファクトは解消されていない。今回、申請者はCZTカメラによる下壁、下側壁の心筋虚血診断に腹臥位撮影、CT吸収補正画像(CTAC)が有用であるか否かを検討した。対象は心筋負荷血流シンチ施行後、翌日に冠動脈造影検査を施行した72症例である。心筋シンチで下壁、下側壁の心筋虚血の有無を判定し、冠動脈造影検査における右冠動脈、左冠動脈回旋枝の有意狭窄の有無と対比した。その結果、心筋シンチの陽性尤度比は通常撮影2.4、腹臥位撮影3.6、CTAC8.1、陰性尤度比は通常撮影0.76、腹臥位0.43、CTAC0.44であり、腹臥位撮影、CTACが通常撮影よりも診断能が有意に高いことが解った。この結果が得られたのは通常撮影では多数例が正常と判定されたが腹臥位撮影、CTACでは軽度虚血と正しく診断されたためであった。本研究は心筋シンチによる下壁、下側壁領域の心筋虚血の診断において腹臥位撮影、CTACでの評価を加えることで診断精度の向上が得られることを同一症例の冠動脈造影で明らかにしており、臨床的に有意義な知見である。